

農林水産省
畜産局長賞

畜種と耕種が連携し、有機肥料を要に 資源循環し、消費者と繋がる六次産業化 アークグループ

肥料製造

原料供給

肥料利用

畜ふん

その他

地元と連携し、資源循環を要に更なる農業発展を目指す

団体紹介

団体名：アークグループ

所在地：岩手県一関市

団体の主な活動：① 養豚事業 ② 有機肥料製造・販売

ウェブサイト：<https://www.arkfarm.co.jp/>

取組概要

背景・目的

グループ会社である(株)若葉が市指定管理者として有機肥料センターの運営を担い、その下でグループ養豚事業や地元畜産農家から畜ふん、地域の食品工場からの食品残渣を受入れ、価値ある原料として有機肥料製造・販売を手掛けている。グループ内及び、地元地域での資源循環を実現することで消費者と繋がり、更なる国内資源利用と有機農業の拡大へと貢献していく。

取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス

豚ふん尿、牛ふん尿、鶏ふん尿、食品残渣物、ワラ、オガ粉、バーク

国内資源肥料の年間製造量 / 全肥料の年間製造量（製造率%）

12,130t / 12,130t（100%）

販売先の中心となる地元農家の顧客数は年々増加しており、会員制度も運営している。その中で農家同士での口コミや紹介制度は顧客増加の大きな一因となっている。また、地元での「若葉の有機肥料」について認知度を高めるために市のローカルラジオ局でCMを流している。印象的でリズムカルなフレーズが耳に残るようにと工夫した。日常的に家庭や職場で耳に触れて貰うことで、認知度も高まり利用者増の一助になっている。新聞折込みやネット通販なども手掛ける中で、全国のお客様に商品を販売することが出来ている。同時に、地域行政との連携にも力を入れている。地域の農業振興公社が管理する国営管理農地（主に有機小麦栽培）での大規模利用も長年継続的に取り組み、地域の有機農業振興に貢献させて頂いている。

上記の取組を通して、自社圃場（小麦・野菜栽培）はもとより、地域圃場（食用米、飼料米、小麦、野菜等栽培）での生産物をオーガニックレストランの食材や直売店での販売に加え、ハム・ソーセージなどの豚肉加工品の原料としても使用し、家畜飼料原料としても使用することでグループ内及び、地域での資源循環型農業を実現している。また、お客様である消費者と繋がりを強く持てるよう、生産者として食や農業の価値を伝えるための牧場を運営し、集客事業や生產品の販売事業にも注力している。

グループ内資源循環型



地域資源循環型



創業 50 年より繋ぎ支える
地域資源循環

